

# ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551)6215~9  
ロシア東欧経済研究所 購読料 送料共前納 1ヵ月 1,200円 1ヵ年 14,000円

平成7年2月25日

No. 981

## 1994年のロシア経済 —生産下落のなか進む構造変動—

### はじめに

ロシア統計国家委員会の刊行する資料（『1994年ロシアの社会・経済情勢』）により、同国の1994年の経済実績が明らかになったので、本号ではその要点を紹介する。

1994年のロシア経済は、インフレの沈静化や貿易の活発化などの一定の成果はあったものの、GDPは前年比15%減と前年よりも激しく下落した。マクロ統計指標から判断するに限り、ロシア経済全体としてはまだまだ低迷を脱していないことが浮き彫りになった。

だが注目すべき点は、生産の下落自体もさることながら、それが産業・地域・貿易構造の本質的な変動を伴って進行している点であろう。1994年の錯綜した経済実績を読むカギも、おそらくこの点にある。

ある学者は端的に、ロシアで進んでいる構造変動を「東高西低」という観点から分析している（D. マツネフ「西⇄東：崩壊のメカニズム」『実業界』紙、1995.1.28）。同氏によれば、1993年まではロシア経済全体が運動しつつ落ち込んできたのに対して、1994年に入って新しい傾向が顕著になってきた。すなわち、原燃料・半製品の生産地であるウラル以東のロシアが輸出の増大に活路を見出しつつあるのに対し、加工産業・農